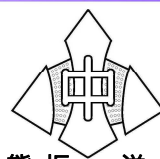


手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年 2月26日(金) 発行

【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

“美しい卒業式”をめざして!! 卒業式の練習・準備進む

3年では、2月15日(月)から学年卒業式練習が始まりました。はじめに学年運営委員長の菅野心美さんから「みんなで力を合わせて美しい卒業式にしましょう!」という力強い言葉がありました。

“美しい卒業式”…素敵な目標だと感じました。“美しさ”を生み出すものは何なのか、何で“美しさ”を表現していくのか…3年生一人一人が、自分の想いをかたちにできれば、きっと“美しい卒業式”が実現できると確信します。楽しみです。

座礼、立礼などの基本的な礼法、入退場、そして、証書授与などの練習が行われています。今年度の式の練習は例年より少なくなっています。3年生は1時間1時間を大切にしながら集中して取り組んでいます。さすがです。短時間の練習でも形になってきたようです。

そして、もうひとつの卒業式(“お別れ会”)についても、生徒会役員を中心に準備が進められています。在校生と卒業生の想いがどのようにクロスしていくのか、どんな会になるのか、こちらもとても楽しみです。



2月22日の練習風景



決して最後まであきらめないこと 県立高校前期選抜迫る!

「受験は団体戦!」という想いを大切にしながらここまで走ってきましたが、いよいよ大きなヤマ場をむかえます。もう一度“当日の心得”を確認します。

友垣祭の時の3年集合写真

- 1 できる問題から解いていくこと。
- 2 時間配分を考えること。
(時計を常に確認しながら)
- 3 問題文をよく読んで、「何を、何で」答えるのかをはっきりさせてから、答えを書くこと。
(丁寧な文字や数字で)
- 4 時間があれば、見直しを必ず行うこと。

そして、一番大切なことは、

- 5 最後の最後まで決してあきらめないこと。



83名の生徒達の健闘を祈っています!

ひたすら“ババ抜き” 2年生



2月16日の2年学年・学級レクでは、クラス単位でババ抜きが行われました。生徒達は、ひたすら“ババ抜き”に興じていました。テレビでも芸



能人が本気になってババ抜きをする番組がありますが、かけひきがあり、スリル・緊張感も味わえます。2年生には気分転換にも繋がったと思います。コロナ渦の中、こんな時間もとても貴重ですね。

今、こんなことも考えています

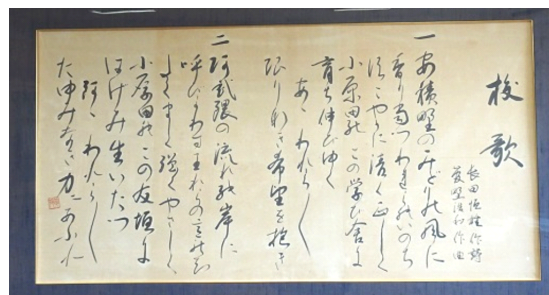
“友垣”と“小原田PRIDE”

阿武隈川の悠々とした流れを見下ろしながら、本校は郡山市初の鉄筋校舎として昭和36年4月に誕生しました。来年度創立60周年をむかえます。人間でいうと還暦です。

この小原田地区は大正時代以降の大工場の新設や住宅地としての発展に伴い、昭和30年代の国道4号線、昭和40年代の49号線の開通とともに、市街化の最も顕著な地区、郡山市の中心地として発展してきました。

さて、本校の文化祭は「友垣祭」と命名されています。また、この「友垣」は、特別支援学級の名前にも使われています。そして、これらのもとになったのが、校歌の歌詞にある『友垣』です。

阿武隈の 流れの岸に
呼びかわす われらのいのち
たくましく つよくやさしく
小原田の この友垣に
はげみ生い立つ ああわれらわれら
たゆみなき ちからにあふれ



また、この『友垣』は、あの有名な童謡である「ふるさと」の歌詞にも登場します。

い か つつが ふるさと
如何にいます父母 恙なしや友がき 雨に風につけても 思いいずる故郷

『友垣』の意味は、「交わりを結ぶこと」を垣根を結ぶのにたとえていった言葉で、意味は「友だち」や「友」を指します。

何気なく使ったり、歌ったりしていた『友垣』という言葉、よく考えてみると、温かい気持ちになる素敵な言葉です。併せて、ここに校歌の2番の歌詞を掲載しましたが、今年度はコロナの影響もあり、歌う機会も少なかった校歌です。校歌は学校の重要な象徴（シンボル）です。卒業式に向けて、この機会に校歌の歌詞の意味を考えてほしいと思います。

新型コロナウイルス感染の収束はまだ見えていません。おそらく来年度も感染症対策の徹底・継続と教育活動の両立を図っていかねばならない状況は続くと思います。

だからこそ、“垣根のように固く結ばれた友・友だち・仲間”とともに、互いを認め合い・支え合い・磨き合いながら、この小原田中学校を自他ともに誇りの持てる学校へと高めることができるようにしたいと考えています。そこで浮かんだ言葉が次の言葉です。

“小原田PRIDE ~自信と誇り~”

創立60周年の節目をむかえる今、“小原田PRIDE”の旗の下、生徒、教職員、保護者の方々、地域の方々と手をたずさえながら、小原田中としての一体感を強めていきたいと思っています。

“小原田PRIDE”の基盤は、規律ある安定した生活にある

様々な大会やコンクール等において上位入賞したり、良い成績を収めたりすることだけが“小原田PRIDE”に繋がっているのではないということです。

一番大切なもの（“小原田PRIDE”の基盤）は、「挨拶がしっかりできる」、「手を抜かずに清掃に取り組む」、「授業を真剣に受ける」、「善悪の判断をしっかりとつけ正しい行動ができる」、「他を思いやることができる」など、規律ある安定した生活ができているかどうかです。これらの基盤ができている成績が伴えば、いや成績が伴わなくとも、その人や集団は周囲の人々から心から讃えられる存在になれるのではないのでしょうか。そして、“小原田PRIDE”という言葉がより一層輝きを増していくのです。

